

試験研究成果普及情報

部門	果樹	対象	普及
課題名：千葉県におけるラビットアイブルーベリーの夏季剪定の効果			
〔要約〕 主軸枝から発生した新梢を、先端から 25～50%の位置で、9月中旬までに切り返し剪定を行うことで、収穫しやすい位置に花芽を着生させられる。			
キーワード ラビットアイブルーベリー、夏季剪定、花芽着生			
実施機関名	主 査	農林総合研究センター	果樹研究室
	協力機関	千葉農業事務所	
実施期間	2018年度～2020年度		

〔目的及び背景〕

ラビットアイブルーベリーは収穫期も夏休みにあたることから観光農園で導入が増加している。ラビットアイブルーベリーは、他のブルーベリー栽培種と比較して樹勢が強く、生育期の後期には樹高が3mに達することもある。高品質果実を生産するためには側枝を定期的に更新する必要があるが、冬季の剪定だけでは、上向きに伸長する新梢に、観光農園で収穫しやすい位置に果実を着果させるのが難しい。そこで、夏季の新梢の剪定により、収穫しやすい位置に花芽を着生させる技術を検証した。

〔成果内容〕

- 1 「ティフブルー」の主軸枝から発生した新梢を、全長のおよそ50%で切除したところ、9月中旬までに切除すると、80%以上の枝で2節程度に花芽が着生する（図1、表1）。
- 2 「ティフブルー」の主軸枝から上向きに発生した新梢を、9月中旬に切除した場合、切り返しの程度は、新梢の先端から25～50%では、花芽が着生する節数及び枝の割合に影響しない（表2-1、表2-2、表3）。
- 3 早生から晩生までのラビットアイブルーベリー4品種において、主軸枝から上向きに発生した新梢の先端から25%を、9月中旬に切除すると、「ティフブルー」では3節程度、「クライマックス」では4節程度、「ブルーベル」では6節程度、「デライト」では2節程度に花芽が着生する。すべての品種で切断箇所直下の節から花芽が着生する（表3）。
- 4 以上のことから、主軸枝から上向きに発生した新梢を、先端から25～50%の位置で、9月に切り返し剪定を行うことで、県内の広い範囲で、収穫に適した位置に花芽を着生させることができる。

〔留意事項〕

[普及対象地域]

県内ブルーベリー生産者

[行政上の措置]

[普及状況]

[成果の概要]



図1 9月に切り返し剪定をした新梢の花芽着生状況

表1 新梢の剪定時期が「ティフブルー」の花芽形成に及ぼす影響

切除日	新梢長 (cm)	切除長 割合(%)	花芽着生 節数 (節/枝)	花芽着生 枝率(%)	花芽着生 高さ(cm)
8月29日	106	47	2.4	88	48
9月13日	72	59	2.3	82	24
9月27日	64	47	1.7	73	31
10月16日	83	47	1.0	50	44
対照(無切除)	91	—	3.9	54	82

注1) 各区3樹を供試し、1樹当たり2～6枝を調査した

2) 令和元年の8月下旬から10月中旬にかけて、八千代市の生産者圃場で、先端がまだ伸長している新梢を1/2程度の長さに切除した

3) 対照は同一主軸枝で同程度伸長している新梢とした

4) 切除時に新梢長と切除した新梢長を調査し、切除した新梢長/切除する前の新梢長×100を切除長割合とした

5) 令和元年12月11日に花芽数と花芽着生高さを調査した

6) 花芽着生高さは、一番下位の花芽の新梢基部からの高さ

7) 花芽が着生した新梢数/調査枝数×100を花芽着生枝率とした

表 2 - 1 9 月剪定の強度が「ティフブルー」の花芽着生に及ぼす影響
(富津市)

区	新梢長(cm)	切除した 新梢長(cm)	花芽着生 節数 (節/枝)	花芽着生 高さ(cm)	花芽着生 枝率(%)
50%切除区	96	48	2.9	44 a	59 ab
25%切除区	87	22	1.9	59 a	66 a
無切除区	95	-	3.2	79 b	25 b
分散分析	n. s.		n. s.	**	*

注 1) 各区 4 樹を供試し、1 樹当たり 10 本程度の新梢について処理を行った

2) 令和 2 年 9 月 13 日に、富津市の生産者圃場で、主軸枝から上向きに伸長した新梢の先端を、50%切除区では約 1/2、25%切除区では約 1/4、腋芽の上部で切り返した

3) 令和 2 年 9 月 13 日に新梢長と切除した新梢長を調査し、切除した新梢長/切除する前の新梢長×100 を切除長割合とした

4) 花芽着生高さは、一番下位の花芽の新梢基部からの高さ

5) 花芽が着生した新梢数/調査枝数×100 を花芽着生枝率とした

6) 分散分析は、*は 5%水準で、**は 1%水準で有意差があることを、n. s. は 5%水準で有意差がないことを示す

7) 異なる英小文字間には、Tukey 法により 5%水準で有意差あり

表 2 - 2 9 月剪定の強度が「ティフブルー」の花芽着生に及ぼす影響
(香取市)

区	新梢長(cm)	切除した 新梢長(cm)	花芽着生 節数 (節/枝)	花芽着生 高さ(cm)	花芽着生 枝率(%)
50%切除区	76	38	2.7	34 a	76
25%切除区	81	20	4.8	54 b	79
無切除区	84	-	9.7	70 c	65
分散分析	n. s.		n. s.	**	n. s.

注 1) 各区 4 樹を供試し、1 樹当たり 10 本程度の新梢について処理を行った

2) 令和 2 年 9 月 14 日に、香取市の生産者圃場で、主軸枝から上向きに伸長した新梢の先端を、50%切除区では約 1/2、25%切除区では約 1/4、腋芽の上部で切り返した

3) 令和 2 年 9 月 14 日に新梢長と切除した新梢長を調査し、切除した新梢長/切除する前の新梢長×100 を切除長割合とした

4) 花芽着生高さは、一番下位の花芽の新梢基部からの高さ

5) 花芽が着生した新梢数/調査枝数×100 を花芽着生枝率とした

6) 分散分析は、**は 1%水準で有意差があることを、n. s. は 5%水準で有意差がないことを示す

7) 異なる英小文字間には、Tukey 法により 5%水準で有意差あり

表3 9月剪定が各品種の花芽着生に及ぼす影響（八千代市）

品種	収穫時期	区	新梢長 (cm)	切除した新梢長 (cm)	花芽着生高さ (cm)	花芽着生節数 (節/枝)
クライマックス	早生	25%切除区	119	30	90	3.6
		無切除区	127	-	123	8.3
		t検定	n. s.		n. s.	n. s.
ティフブルー	中生	25%切除区	105	26	80	3.3
		無切除区	104	-	100	5.5
		t検定	n. s.		n. s.	n. s.
ブルーベル	中生	25%切除区	120	30	84	5.8
		無切除区	125	-	113	15.6
		t検定	n. s.		**	*
デライト	晩生	25%切除区	138	36	93	1.7
		無切除区	130	-	116	10.0
		t検定	n. s.		*	**

注1) 調査は八千代市の生産者圃場で行った

- 2) ティフブルーでは各区4樹、そのほかの品種では各区3樹を供試し、1樹当たり10本程度の新梢について処理を行った
- 3) 25%切除区では、「クライマックス」、「ティフブルー」及び「ブルーベル」は9月10日、「デライト」は9月17日に、主軸枝から上向きに伸長している新梢の先端を約1/4、腋芽の上部で切り返した
- 4) 令和2年9月の切除時に新梢長と切除長を調査し、令和3年1月に、花芽着生高さ及び各新梢の花芽着生節数を調査した
- 5) 花芽着生高さは、一番下位の花芽の新梢基部からの高さ
- 6) t検定は、*は5%水準で、**は1%水準で有意差があることを、n. s.は5%水準で有意差がないことを示す

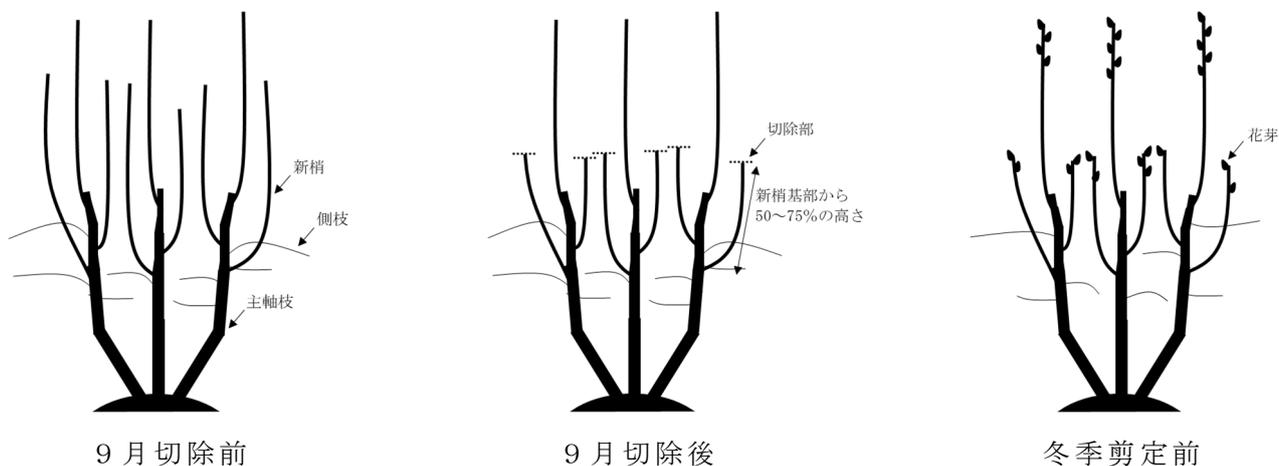


図2 9月切り返し剪定の模式図

[発表及び関連文献]

令和3年度試験研究成果発表会（果樹部門）

[その他]